

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察技術情報について
令和7年度病害虫発生予察技術情報第6号を公表したので送付します。
令和7年度病害虫発生予察技術情報第6号

クリバネアザミウマの被害確認と防除について

令和6年6月に、沖縄本島南部の施設栽培のバニラでクリバネアザミウマの被害が確認されました。本種は寄主範囲が広く他品目でも被害が発生する可能性がありますので早期発見、防除に努めましょう。

1 形態および生態

- (1) 雌成虫は褐色で体長は1.2～1.5mmである(図1)。体の表面に細かい網目模様を有し(図2)、頭部は幅広で褐色である。複眼と単眼の間は黄色、前翅は褐色で亜基部と先端は淡色であり中間部に基部の暗色帯の半分以下の長さの淡色帯を持つことがある。
- (2) 幼虫の体色は黄色で、腹部背面には排泄物が固着した点状の褐色の物質が認められ、尾部端には球状の排泄物を保有する場合が多い。
- (2) 本種は熱帯から温帯に広く分布しており、24℃での発育期間は24日である。国内では雄成虫は発見されておらず、雌成虫のみで単為生殖する。

2 被害

- (1) 本種は葉や果実を舐めるように吸汁加害することでかすり症状やえそ斑を発生させることで被害を生じる(図3、4)。寄主範囲は広く、国内ではキク科、サトイモ科、ショウガ科、ナス科、トケイソウ科、マメ科、ユリ科等における被害が報告されている。
- (2) 県内では糸満市のピーマン、宮古島市のヤエムグラ(雑草)、石垣市のテリミノイヌホウズキ(雑草)からの採取記録がある。

3 防除対策

- (1) 寄主植物の範囲が広く、雑草類が増殖源となる可能性があるため、ほ場内外の除草を徹底する。
- (2) 寄生の無い健全な苗を使用し、苗導入時に防除を徹底する。
- (3) 寄生葉及び寄生果実を除去して持ち出し処分する。
- (4) 各種薬剤に対する感受性が高い事が判明している。アザミウマ類に登録のある薬剤により防除を行う。バニラは野菜類での登録農薬が使用できるので野菜類でアザミウマ類に登録のある薬剤で防除を行う。



図1 クリバネアザミウマ雌成虫



図2 頭部の網目模様
(原図：農林水産省植物防疫所)



図3 バニラの葉のかすり症状



図4 被害部に寄生するクリバネアザミウマ幼虫

